

乳癌QI一覧

乳癌

治療前評価		
1	併存症の評価	
	分母: 乳癌で治療を開始された患者数	分子: 併存症の記載がある患者数
2	ホルモン受容体検索の記載	
	分母: 乳癌と診断されている患者数	分子: 免疫組織化学的方法によりエストロゲン受容体、プロゲステロン受容体の両方の検索がなされている患者数
3	超音波による腫瘍径の測定法	
	分母: 乳癌と診断されている患者数	分子: 治療開始前に超音波が行われ、腫瘍径所見が記載されている患者数
4	リンパ節陽性例に対する骨シンチグラム検査	
	Stage II ~ IIIの乳癌と診断された患者で、リンパ節転移陽性または腫瘍径5cm以上の記載のある患者数	分子: 骨シンチ(骨検索)が行われている患者数
外科療法		
5	センチネルリンパ節生検、郭清	
	分母: Stage I ~ II (cN0)の乳癌で手術を受けた患者数	分子: SNBまたはリンパ節郭清の両方の選択肢について説明がなされ、その記載がある患者数
6	センチネルリンパ節の同定法	
	分母: 削除	分子: 削除
7	非浸潤性乳管癌への乳房温存術	
	分母: 削除	分子: 削除
8	腫瘍径3cm以下のStage I ~ IIの乳癌に対する乳房温存術	
	Stage I ~ IIの浸潤性乳癌で、腫瘍径3cm以下で下で広範囲にわたる乳癌の進展、多発癌がない患者数	分子: 乳房温存術が行われたか、その選択肢についての説明の記載がある患者数
9	乳房再建の説明	
	分母: Stage 0 ~ IIIの乳癌に対して乳房切除術が行われた患者数	分子: 乳房再建についての説明がなされている患者数
10	病理報告書における所見の記載	
	分母: Stage I ~ IIIの乳癌に対して外科手術が行われた患者数	分子: 病理報告書に浸潤径、Grade(組織、または核Grade)、脈管侵襲、リンパ節転移の有無が記載されている患者数
11	術後断端陰性確保	
	分母: Stage I ~ IIIで乳房温存術が施行されて、切除断端陰性で無い患者数	分子: 追加切除かブースト照射が行われた患者数
12	予防抗菌剤の適切な投与	
	分母: 手術を受け、予防的抗菌剤が投与された乳癌患者数	分子: 第1世代セファロスポリンが、当日皮膚切開前に投与された患者数
13	腋窩リンパ節の郭清レベル	
	分母: 腋窩リンパ節陽性の乳癌で手術を受けた患者数	分子: レベルIIを含むリンパ節郭清が行われた患者数
薬物療法(化学療法/他)		
14	局所進行乳癌に対する治療順序	
	分母: Stage IIIB、IIICの乳癌患者数	分子: 全身化学療法が最初に行われていて、次に手術、放射線治療が行われた患者数
15	化学療法施行時の体表面積の記載	
	分母: 化学療法を受けた乳癌患者数	分子: 診療録に体表面積が記載されている患者数

16	ガイドラインに沿った化学療法	分母: 削除	分子: 削除
17	ホルモン受容体陰性の転移・再発乳癌に対する化学療法	転移・再発乳癌患者で、(全身状態が悪いという記載がある者を除く)以下の条件のいずれかを満たす患者数 ・ホルモン受容体陰性 分母: ・ホルモン受容体陽性で内臓への広範な転移がある ・ホルモン療法を施行された(化学療法はその時点では未施行)患者で、「再発」「進行」などの記載が診療録に存在する	分子: 全身化学療法(分子標的治療薬を含む)が行われている患者数
18	術後化学療法の内容	分母: 術後化学療法を受けた乳癌患者数	分子: アンスラサイクリン、タキサン、CMF、のいずれかが化学療法に含まれている患者数
19	術後化学療法のサイクル数	分母: アンスラサイクリン、タキサン、CMF のいずれかの化学療法が術後化学療法として終了し、終了から2週間経過している乳癌患者数	分子: サイクル数が4サイクル以上であった患者数
20	浸潤性乳癌におけるHER-2検索	分母: 浸潤性乳癌の患者数	分子: HER-2の検査が行われ、記載されている患者数
21	転移・再発乳癌に対するトラスツズマブ投与	分母: HER-2陽性の転移・再発乳癌患者数	分子: トラスツズマブが使用された患者数
22	リンパ節陽性の浸潤性乳癌に対するトラスツズマブ投与	分母: HER-2陽性でリンパ節陽性の浸潤性乳癌患者数	分子: トラスツズマブが使用された患者数
23	HER-2陽性の転移・再発乳癌に対する化学療法とトラスツズマブの同時投与	分母: 削除	分子: 削除
24	HER-2の確定診断	分母: 免疫組織化学的方法で行われたHER-2の検査が2+となった乳癌患者数	分子: FISH法で評価がされた(再検も含む)患者数
薬物療法(ホルモン療法)			
25	ホルモン療法(ホルモン受容体陽性で腫瘍径1cm以上)	分母: 削除	分子: 削除
26	ホルモン療法(骨転移のみ)	分母: ホルモン受容体陽性で骨転移のみの進行乳癌患者数(他が検索されて陰性か、検索されていない)	分子: ホルモン療法が行われた患者数
27	閉経前の転移・再発乳癌へのホルモン療法	分母: 閉経前でホルモン受容体陽性の転移・再発乳癌患者数	分子: 卵巣機能抑制療法(LH-RHアナログ、卵巣摘出術)とタモキシフェン、あるいは併用療法を施行された患者数
28	閉経後の転移・再発乳癌へのホルモン療法	分母: 閉経後でホルモン受容体陽性転移・再発乳癌に対して一次ホルモン治療を受けた患者数	分子: アロマターゼ阻害薬またはタモキシフェンが使用された患者数

29	早期乳癌への術後ホルモン療法と化学療法の順序	<p>Stage I ~ II で手術を受けたホルモン受容体 分母: 陽性乳癌で、静注化学療法とホルモン療法の 両方を受けている患者数</p> <p>分子: 化学療法が終了してからホルモン療法を受け た患者数</p>
30	タモキシフェン抵抗性の転移・再発乳癌患者に対するアロマターゼ阻害薬投与	<p>ホルモン受容体陽性の転移・再発乳癌で、閉 分母: 経後にタモキシフェン抵抗性(=タモキシフェン 服用中に再発、新しい転移、増大のいずれか の記載)となった患者数</p> <p>分子: アロマターゼ阻害薬が使用された患者数</p>
31	タモキシフェン服用困難な乳癌患者に対するアロマターゼ阻害薬	<p>乳癌に対して手術を受け、閉経後タモキシフェ 分母: ン服用中に副作用により服用が困難(=子宮 合併症、その他副作用の具体的記載または、 タモキシフェン困難との記載)となった患者数</p> <p>分子: アロマターゼ阻害薬が使用された患者数</p>
薬物療法の副作用		
32	高リスク化学療法前の予防制吐剤投与	<p>分母: 削除</p> <p>分子: 削除</p>
33	好中球減少時の発熱への抗生剤投与	<p>分母: 好中球数500/mm³以下で38℃以上発熱した 乳癌患者数</p> <p>分子: 採血・発熱の記録の遅いものと同じ日に抗生 物質が使用された患者数</p>
34	タモキシフェン服用中の性器出血への対処	<p>分母: 乳癌で術後タモキシフェンを1年以上服用して いる患者数</p> <p>分子: 年1回、婦人科を受診指示をしている患者数</p>
放射線療法		
35	乳房温存術後の全乳房照射	<p>分母: 乳房温存術を受けた70歳以下の乳癌患者数</p> <p>分子: 術後全乳房照射が行われた患者数</p>
36	断端陽性へのブースト照射	<p>分母: 乳房温存手術を受け、断端陽性であった患者 数</p> <p>分子: 腫瘍床に対してブースト照射が行われた患者 数</p>
37	多発脳転移に対する放射線療法	<p>分母: 多発脳転移のあった乳癌患者数</p> <p>分子: 放射線療法(定位放射線治療/全脳照射) が行われた患者数</p>
38	腋窩リンパ節転移に対する術後照射	<p>乳房切除術が行われ、再発ハイリスクの(T3 分母: 以上、または4個以上リンパ節転移のいずれ か)の患者数</p> <p>分子: 術後照射(胸壁±鎖骨上窩)がなされた患者 数</p>
39	放射線治療計画の事前記載	<p>分母: 放射線治療を受けたStage I ~ IIIの乳癌患者 数</p> <p>分子: ①総照射量 ②1回あたりの照射量あるいは照射回数 ③照射部位 の3つが照射開始前に診療録に記載されてい る患者数</p>
40	放射線療法の完遂	<p>分母: 術後放射線療法を開始された乳癌患者数</p> <p>分子: 放射線治療が計画どおりに完遂された患者数 (グレード4の毒性の記載のあるものを除く)</p>
フォローアップ		
41	毎年のマンモグラフィーによる経過観察	<p>分母: 乳癌に対して手術を受けて5年以内の患者数 (両側乳切患者を除く)</p> <p>分子: 毎年マンモグラフィー検査が行われている患 者数</p>

42	問診・視触診による経過観察	分子: 3年以内は半年おき、3~5年は毎年、問診、視触診が行われている患者数
43	画像検査・腫瘍マーカーの回数	治療終了後1年以内に ・画像検査(CT、超音波、胸部X線、骨シンチグラム)の数が ≤ 2 回 ・腫瘍マーカーの検査 ≤ 2 回(同種類の検査)である患者数

肝癌QI一覧

肝癌

治療前評価	
1	診断時腫瘍マーカーの測定 分母: 肝細胞癌と診断された患者数 分子: AFP、PIVKA-IIの両方を診断から治療までの間に測定された患者数
2	治療前画像検査 分母: 肝細胞癌に対して手術、経皮的局所療法、肝動脈(化学)塞栓療法のいずれかが行われた患者数 分子: CTまたはMRIによるdynamic studyが行われた患者数
3	治療前の記載事項 分母: 肝細胞癌に対して治療を受けた患者数 分子: 治療開始前のStage分類(TNMまたはTNMの判定因子)と肝機能(Child-Pugh分類または、肝障害度)の診療録記載がある患者数
4	ICG 15分停滞率の測定 分母: 初回に肝切除術を受けた肝細胞癌患者数 分子: ICG 15分停滞率が治療開始前に測定された患者数
局所療法(手術・TA(C)Eを含む)	
5	治療法の選択(腫瘍径3cm以下、個数3個以下) 分母: 肝障害度Aで腫瘍径が3cm以下、個数3個以下の肝細胞癌患者数 分子: 肝切除術または局所療法(経皮的エタノール注入(PEI)、マイクロ波凝固(PMCT)、またはラジオ波焼灼療法(RFA))が行われたか、行わない場合は理由の記載がある患者数
6	治療法の選択(腫瘍径3~5cm) 分母: 肝障害度Aで腫瘍径が3~5cmの単発性の肝細胞癌患者数 分子: 肝切除が施行されたか、施行しない場合には理由が記載された患者数
7	治療法選択の患者への説明(肝障害度A、B) 分母: 肝障害度AまたはBで腫瘍径が最大3cm以下、個数3個以下の肝細胞癌に対して肝切除または局所療法を受けた患者数 分子: 施行されなかった方の治療についての診療録記載がある患者数(説明文を渡した記載でも可)
8	治療法選択の患者への説明(肝障害度C) 分母: 肝障害度Cで肝移植以外の抗がん治療を受けた患者数 分子: 期待される効果とリスクに対する説明の診療録記載がある患者数
9	経皮的局所療法の選択 分母: 初期治療で、経皮的エタノール注入療法(PEI)が行われた肝細胞癌患者数 分子: ラジオ波焼灼療法(RFA)を施行できない理由の診療録記載がある患者数
10	肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)の適応 分母: StageIVa期以下でVp0~2、かつChild分類A、Bの肝細胞癌患者で、手術・局所療法不能の患者数(手術・経皮的局所療法が診断から3ヶ月以内に行われないもの) 分子: TA(C)E/TAIまたは、分子標的薬治療が行われた患者数
11	再発患者の治療(肝障害度Aの腫瘍径3~5cmの単発性肝細胞癌) 分母: 肝障害度A、単発性で腫瘍径3~5cmの再発肝細胞癌患者数 分子: 肝切除術が行われた、または行われない理由の診療録記載がある患者数
12	再発患者の治療(肝障害度Aの腫瘍径3cm以下の単発性肝細胞癌) 分母: 肝障害度A、単発性で腫瘍径3cm以下の再発肝細胞癌患者数 分子: 肝切除術または局所療法が行われた、または、行われない理由の診療録記載がある患者数

13	再発患者の治療(肝障害度Aの腫瘍径3cm以下、2~3個の再発肝細胞癌)	
	分母: 肝障害度A、最大腫瘍径3cm以下、個数2~3個の再発肝細胞癌患者数	分子: 肝切除術または局所療法または肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)が行われた、または、行われない理由の診療録記載がある患者数
14	リピオドール肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)	
	分母: TA(C)Eを受けた肝細胞癌患者数	分子: リピオドールが混合して使用された患者数
15	肝移植の適応の説明	
	分母: ミラノ基準内、肝障害度Cで65歳以下の肝細胞癌患者数	分子: 肝移植の可能性の説明がなされたこと記載がある患者数
術後の記録と説明		
16	術後の診療録記録	
	分母: 肝切除を受けた肝細胞癌患者数	分子: 病理所見上vpと分化度の診療録記載がある患者数
17	術後再発リスクの記載	
	分母: 肝切除術を受けた肝細胞癌患者数	分子: 術後、再発リスクについての主治医の判断の診療録記載がある患者数
18	術後病理所見の説明	
	分母: 肝切除術を受けた肝細胞癌患者数	分子: 術後、病理所見についての説明の診療録記載がある患者数
全身療法		
19	全身化学療法	
	分母: 分子標的薬治療が行われた肝細胞癌患者数	分子: TA(C)E適応外であることのカルテ記載がある患者数
20	ホルモン療法	
	分母: 肝細胞癌患者数	分子: ホルモン療法が行われていない患者数
フォローアップ		
21	根治治療後の腫瘍マーカーの経過観察	
	分母: 肝細胞癌の根治治療を受けた患者数(肝切除術、局所療法)	分子: 根治術(肝切除術、局所療法)から1年以内で、AFP,PIVKA-IIのいずれかが測定間隔が4ヶ月よりも短い患者数
22	肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)後の検査間隔	
	分母: TA(C)Eを受けた肝細胞癌患者数	分子: 術直後のCTから2ヶ月以内にCT/MRI及び腫瘍マーカー検査が行われた患者数
23	肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)後のフォロータイミング(画像検査)	
	分母: TA(C)Eを受けた肝細胞癌患者数	分子: 1年以内は、少なくとも3ヶ月毎の間隔で、画像検査(禁忌がない限り造影CT/MRI)のフォローがされている患者数
24	肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E術)後のフォロータイミング(腫瘍マーカー)	
	分母: TA(C)Eを受けた肝細胞癌患者数	分子: 1年以内は少なくとも3ヶ月毎の間隔で、腫瘍マーカー(AFP,PIVKA-II)のフォローがされている患者数
25	再肝動脈(化学)塞栓療法(TA(C)E)の検討	
	分母: TA(C)Eを受けた肝細胞癌患者のうち、腫瘍マーカーの増加、画像検査で腫瘍径の増大、血流豊富な腫瘍の出現のいずれかを示した患者数	分子: 再TA(C)Eが行われた、または、その検討の診療録記載がある患者数

大腸癌QI一覽

治療前評価	
1	治療前腫瘍マーカー(血清CEA値)の測定
分母: 手術または化学療法を受けた大腸癌患者数	分子: 治療前の血清CEA値の測定結果が診療録に記載されている患者数
2	術前の全大腸検索
分母: 手術を受けた大腸癌患者数	分子: 術前に全大腸の検索(内視鏡検査、注腸造影検査、CT colonography)が施行された、もしくは施行されない理由が診療録に記載されている患者数
3	術前の診断的内視鏡検査
分母: 待期手術を受けた大腸癌患者数	分子: 術前に診断的内視鏡検査が施行され、検査結果(腫瘍の部位、肉眼型、腫瘍の大きさ、予想される深達度(早期癌の場合)を含む)が診療録に記載されている患者数
4	術前の腫瘍の生検
分母: 待期手術を受けた大腸癌患者数	分子: 術前に腫瘍の生検が施行された患者数
5	術前の直腸指診
分母: 手術を受けた直腸癌(Ra、Rb)患者数	分子: 術前に直腸指診が施行され、所見(触知の有無、腫瘍から肛門縁までの距離(触知した場合)・腫瘍と肛門括約筋との位置関係(触知した場合)・腫瘍の可動性(触知した場合))が診療録に記載されている患者数
6	術前の腹部画像検査
分母: 待期手術を受けたcSM以深の大腸癌患者数	分子: 術前に肝臓を含む腹部造影CT(行えない場合には他の腹部の画像検査)が施行された患者数
7	術前の骨盤部画像検査
分母: 待期手術を受けたcSM以深の直腸癌患者数	分子: 術前に骨盤部の画像検査(造影CTもしくはMRI)が施行された患者数
8	大腸癌手術患者に対する手術リスクの説明
分母: 手術を受けた大腸癌患者数	分子: 手術リスク(起こり得る合併症の内容・発生率、死亡率を含む)が説明され(患者に説明できない場合には代理人に)、それが診療録に記載されている患者数
9	大腸癌手術患者に対する手術により期待される効果の説明
分母: 手術を受けた大腸癌患者数	分子: 手術により期待される効果(治癒率または5年生存率)が説明され(患者に説明できない場合には代理人に)、それが診療録に記載されている患者数
10	直腸癌患者への術前説明
分母: 局所切除以外の手術を受けた直腸癌患者数	分子: 術後の機能障害の可能性(排便機能障害/排尿機能障害/男性性機能障害)が説明され(患者に説明できない場合には代理人に)、それが診療録に記載されている患者数

周術期医療(直前・直後)	
11 周術期の深部静脈血栓症予防	<p>分母: 手術を受けた大腸癌患者数(血栓の判明している患者を除く)</p> <p>分子: 周術期の深部静脈血栓症予防(①低用量ヘパリンまたは低分子ヘパリン、②間欠的空気圧迫法、③弾性ストッキングのいずれかによる)が施行された患者数</p>
12 予防的経静脈的抗菌薬の投与時期	<p>分母: 手術を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: 手術開始前1時間以内に予防的に経静脈的抗菌薬が投与された患者数</p>
13 予防的経静脈的抗菌薬投与の中止時期	<p>分母: 手術を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: 術後3日以内に予防的抗菌薬投与が中止された患者数</p>
術式	
14 リンパ節転移を認めないSM癌に対するリンパ節郭清	<p>分母: リンパ節転移を認めないSM癌と術前診断され、手術を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: D2以上の郭清が行われた、もしくは行われな理由が診療録に記載されている患者数</p>
15 Stage II・III 大腸癌に対するリンパ節郭清	<p>分母: 手術を受けた、Stage II・III の大腸癌患者数</p> <p>分子: D3郭清が行われた、もしくは行われな理由が診療録に記載されている患者数</p>
16 結腸癌手術における腸管切除範囲	<p>分母: 手術を受けた結腸癌患者数</p> <p>分子: 腫瘍から口側・肛門側ともに5cm以上の腸管が切離された患者数</p>
17 直腸癌手術における肛門側切除範囲	<p>分母: 手術を受けた直腸癌患者数</p> <p>分子: 腫瘍の肛門側縁より適切な長さの直腸間膜切離(RS、Raで3cm、Rb2cm)が行われ、腫瘍の肛門側縁から切除断端までの距離が診療録に記載されている患者数</p>
術後の記録と説明	
18 肉眼的根治度の診療録への記載	<p>分母: 手術を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: 癌遺残または肉眼的根治度が診療録に記載されている患者数</p>
19 術後病理所見の診療録への記載	<p>分母: 原発巣切除を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: 以下の病理組織学的所見が診療録に記載されている患者数 <ul style="list-style-type: none"> ・壁深達度 ・リンパ節郭清個数 ・リンパ節転移個数 ・脈管侵襲の有無 ・切除断端または剥離面における癌細胞の有無 </p>
19' 術後病理所見の診療録への記載	<p>分母: 原発巣切除を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: TNM分類または大腸癌取扱い規約に準じた病期(fStage)</p>
20 術後病理所見の患者説明と記載	<p>分母: 手術を受けた大腸癌患者数</p> <p>分子: 外科医から切除標本の病理検査所見に基づいたStageの説明がなされ(患者に説明できない場合には代理人に)、その内容が診療録に記載されている患者数</p>

術後マネジメント	
21	ドレーン排液量、性状の観察
分母: 手術を受けドレーンを留置された大腸癌患者数	分子: a) 1日のドレーン排液量が観察され、診療録に記載されている患者数 b) ドレーン排液の性状が観察され、診療録に記載されている患者数
22	術後の発熱原因の検索
分母: 術後3日目以降に38.5度以上の発熱を認めた大腸癌患者数	分子: その日のうちに手術部位感染の有無の確認、および発熱の原因検索が行われ、診療録に記載されている患者数
23	結腸癌患者の術後尿道カテーテルの抜去
分母: 術中に尿道カテーテルが留置された結腸癌患者数	分子: 術後4日目までに尿道カテーテルが抜去された、もしくは抜去されない理由が診療録に記載されている患者数
内視鏡治療	
24	内視鏡的摘除における治療前深達度診断
分母: 最大径2cm以上の病変の内視鏡的摘除を行った大腸癌患者数	分子: 色素散布、拡大内視鏡検査、超音波内視鏡検査(EUS)のいずれかによる治療前深達度診断が行われた患者数
25	内視鏡的摘除方法(一括切除・分割切除)の診療録への記載
分母: 内視鏡的摘除を受けた大腸癌患者数	分子: 一括切除か分割切除かが診療録に記載されている患者数
26	内視鏡的摘除後の病理所見の診療録への記載
分母: 内視鏡的摘除を受けた大腸癌患者数	分子: 以下の事項が診療録に記載されている患者数 ・病変の大きさ、肉眼型、組織型 ・pSM浸潤度の実測値(μ m)(pSM癌の場合) ・脈管侵襲の有無(pMS癌の場合) ・水平断端における癌細胞の有無 ・垂直断端における癌細胞の有無 ・浸潤先進部の簇出(budding) Grade(2010年1月以降の症例)
27	内視鏡的摘除を受けた患者に対する追加手術
分母: 内視鏡的摘除を受け、組織学的検索にて ・脈管侵襲陽性 ・組織型が低分化腺癌・未分化癌 ・pSM浸潤距離1000 μ m以上 ・pSM垂直断端陽性 ・浸潤先進部の簇出(budding) Grade 2/3(2010年1月以降の症例) のいずれかの所見を認めた大腸癌患者数	分子: 外科的追加腸切除(リンパ節郭清を伴う)が行われているか、もしくは施行されない理由が診療録に記載されている患者数
転移・再発癌の治療	
28	転移・再発大腸癌に対する転移・再発巣の切除
分母: StageIV または再発大腸癌患者数	分子: 転移・再発巣が切除されたか、もしくは切除不能の理由が診療録に記載されている患者数

29	転移・再発大腸癌患者に対するインフォームドコンセント	分母: StageⅣまたは再発大腸癌患者数	分子: インフォームドコンセント(複数治療法の提示、期待される効果、起こり得る合併症、有害事象、治療後の Quality of Life(QOL)など)が施行され、その内容が診療録に記載されている患者数
30	放射線治療を受ける直腸癌患者に対するインフォームドコンセント	分母: 放射線治療を受けた直腸癌患者数	分子: 期待される効果および起こり得る合併症についてインフォームドコンセントが行われた患者数
31	狭窄症状を示すStageⅣ大腸癌に対する外科的治療	分母: 原発巣による狭窄症状があるStageⅣ大腸癌患者数	分子: 原発巣の外科的切除または人工肛門造設が施行されているか、もしくは行われない理由が診療録に記載されている患者数
化学療法			
32	StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法	分母: 組織学的StageⅢと診断された大腸癌患者数	分子: 術後8週間以内に標準的補助化学療法が施行されたか、もしくは施行しない理由が診療録に記載されている患者数
33	化学療法に関するインフォームドコンセント	分母: 化学療法を受けた大腸癌患者数	分子: 化学療法により期待される効果、起こり得る合併症、有害事象、費用についてのインフォームドコンセントが行われた患者数
34	化学療法施行中の患者に対する血液検査項目	分母: 大腸癌に対する化学療法を受けた患者数	分子: 月1回以上、以下の血液検査項目が確認されている患者数(血算(分画を含む)・総ビリルビン、AST、ALT、血清クレアチニン値)
35	化学療法の延期	分母: 大腸癌に対する化学療法を受けているうち、以下のいずれかを認めた患者数 ・白血球数 1500/mm ³ 未満 ・血小板数 5万/mm ³ 未満 ・総ビリルビン \geq 3.0mg/dl ・38℃以上の発熱 ・Grade3以上の悪心、嘔吐、下痢	分子: 化学療法を延期されたか、もしくは延期しない理由が診療録に記載されている患者数
36	化学療法施行中の有害事象	分母: 外来で化学療法を受けた大腸癌患者数	分子: 最初の3ヶ月、毎回、医師による診察時、診療録に有害事象の有無が記載されている患者数
37	化学療法の治療効果の判定	分母: 化学療法を受けた切除不能進行・再発大腸癌患者数	分子: 少なくとも4か月ごとに画像診断による治療効果判定が行われている患者数
フォローアップ			
38	術後サーベイランスにおける腫瘍マーカーの測定	分母: 治癒切除手術を受けたStageⅢ大腸癌患者数	分子: 術後3年間、3か月ごとに血清腫瘍マーカー値(血清CEA)の測定が行われている患者数
39	術後サーベイランスにおける胸部画像検査	分母: 治癒切除手術を受けたStageⅢ大腸癌患者数	分子: 術後3年間、半年ごとに胸部単純X線検査または胸部CTが施行されている患者数

胃癌QI一覧

治療前評価	
1	治療前の腹部造影CT 分母: 待期手術または化学療法を受けた胃癌患者数 分子: 治療前に腹部造影CT(行えない場合には他の腹部画像検査)が施行された患者数
2	治療前の血清腫瘍マーカー値の測定 分母: 根治的待期手術(進行癌に対して)または化学療法を受けた胃癌患者数 分子: 治療前に血清腫瘍マーカー値(CEA、CA19-9、AFP など)が測定された患者数
3	待期手術前の診断的内視鏡検査 分母: 根治的な待期手術を受けた胃癌患者数 分子: 術前検査(内視鏡検査/UGI)が施行され、検査結果詳細(肉眼型、部位、深達度)が記載されている患者数
4	内視鏡切除前の診断的内視鏡検査 分母: 内視鏡切除を受けた胃癌患者数 分子: 術前検査(内視鏡検査/UGI)が行われ、以下の事項が記載されている患者数 ・肉眼型 ・部位 ・腫瘍径 ・深達度 ・UL所見の有無
5	待期手術前の病理学的診断 分母: 待期手術を受けた胃癌患者 分子: 治療前に腫瘍生検と病理学的診断がされた患者数
6	内視鏡切除前の病理学的診断 分母: 内視鏡切除を受けた胃癌患者数 分子: 治療前に腫瘍生検と病理学的診断がなされた患者数
7	手術リスクの説明 分母: 待期手術を受けた胃癌患者数 分子: 合併症の内容とその発生率、死亡率を含めた手術のリスクが説明され(患者に説明できない場合には代理人に)、その診療録記載がなされている患者数
8	手術により期待される効果の説明 分母: 手術を受けた胃癌患者数 分子: 手術により期待される効果(治癒率または5年生存率)の説明(患者に説明できない場合には代理人に)とその診療録記載が行われている患者数
周術期医療(直前・直後)	
9	予防的経静脈的抗菌薬投与の開始時期 分母: 胃癌に関して待期手術を受け、その際に予防的経静脈的抗菌薬投与が行われた患者数 分子: 予防的経静脈的抗菌薬投与のタイミングが、手術開始前1時間以内であった患者数
10	予防的経静脈的抗菌薬投与の中止時期 分母: 手術を受けた胃癌患者数 分子: 手術終了後3日以内に予防的抗菌薬投与が中止された患者数
11	周術期の深部静脈血栓症予防 分母: 定型手術を受けた胃癌患者数(血栓の判明している患者は除く) 分子: 以下のいずれかによる深部静脈血栓症予防が行われた患者数 ・低用量ヘパリン ・間欠的空気圧迫法(IPC) ・弾性ストッキング

治療・術式選択

12	<p>cM胃癌に対する内視鏡切除</p> <p>分母: 分化型、2cm以下、かつUL(-)のcM胃癌と診断された患者数</p>	<p>分子: 内視鏡切除が施行されたか、または施行されない場合にはその理由の診療録記載がある患者数</p>
13	<p>手術切除の説明</p> <p>分母: 未分化型、2cmより大きいもの、UL(+)病変、のいずれかの胃癌に対して内視鏡治療を受けた患者数</p>	<p>分子: 治療前の、手術切除が標準という旨の説明が行われ、記載されている患者数</p>
14	<p>cT1N1-3またはcT2-4aN0-3の胃癌に対する定型手術</p> <p>分母: cT1N1-3またはcT2-4aN0-3の胃癌患者数</p>	<p>分子: 初回治療として定型手術が施行されている、または施行されない理由が診療録に記載されている患者数</p>
15	<p>大動脈周囲リンパ節郭清</p> <p>分母: 胃癌に対する手術で大動脈周囲リンパ節郭清が行われた患者数</p>	<p>分子: 術前のCTで大動脈周囲リンパ節腫大を認め、または術中に転移を疑う所見を認めた旨の診療録記載がある患者数</p>
術後の記録と説明		
16	<p>食事指導</p> <p>分母: 胃切除術を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子: 術前または術後退院より前に、術後の食事に関する指導の診療録記載がある患者数</p>
17	<p>手術所見の記載</p> <p>分母: 胃切除術を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子: 手術所見として、以下の事項のすべての診療録記載がある患者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切除法 ・再建法 ・リンパ節郭清度 ・部位 ・深達度 ・リンパ節転移程度(sN) ・その他の転移の有無(H、P) ・手術根治度
18	<p>術後病理所見の記載</p> <p>分母: 胃切除術を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子: 以下の病理診断事項が診療録に記載されている患者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁深達度(Tステージでも良い) ・リンパ節転移の有無 ・リンパ節郭清個数 ・脈管侵襲の有無 ・切除断端部における癌細胞の有無 ・TNM Stageまたは胃癌取扱い規約に準じたStage ・腹腔内細胞診(術中診断にT1、T2と記載があるものは除く)
19	<p>病理検査所見についての患者への説明</p> <p>分母: 胃切除術または内視鏡摘除を受けた患者数</p>	<p>分子: 切除標本の病理検査所見について説明がなされ(患者に説明できない場合には代理人に)、説明したことが診療録に記載されている患者数</p>
内視鏡治療		
20	<p>内視鏡切除における治療内容の記載</p> <p>分母: 内視鏡切除を受けた胃癌患者</p>	<p>分子: 治療内容(切除方法、切除片数(一括切除か分割切除か))が診療録に記載されている患者数</p>

21	内視鏡切除後の病理所見の記載	<p>以下のすべての事項を含む病理組織学的診断が診療録に記載されている患者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深達度 ・SM浸潤度(SM癌の場合) ・病変の大きさ ・組織型 ・UL 所見の有無 ・脈管侵襲の有無 ・水平断端 ・垂直断端
	<p>分母: 内視鏡切除を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
22	内視鏡切除後の外科的追加切除の検討	<p>外科的追加切除(リンパ節郭清を伴う)が施行されたか、または施行されない理由が診療録に記載されている患者数</p>
	<p>胃癌に対して内視鏡切除を受け、組織学的検索で</p> <p>分母:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・垂直断端陽性、 ・脈管侵襲陽性、 ・深達度がSM2(500μm以上)のいずれかを認めた患者数 	<p>分子:</p>
化学療法		
23	術後S-1療法	<p>S-1療法による補助化学療法の選択肢が提示されたか、または提示しない理由が診療録に記載されている患者数</p>
	<p>胃癌に対して根治手術を受け組織学的に取り扱</p> <p>分母: 扱い規約Stage II、III(pT1,pT3NOを除く)の進行癌と診断され6週以内に退院した患者数</p>	<p>分子:</p>
24	化学療法に関する患者への説明	<p>期待される効果、有害事象に関する説明(本人に説明不可能な場合には代理人に)がなされ、および文書による同意署名がある患者数</p>
	<p>分母: 化学療法を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
25	化学療法中の体重測定	<p>化学療法中最初の半年は、少なくとも2ヵ月に1回の体重測定がなされた患者数</p>
	<p>分母: 化学療法を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
26	化学療法中の臨床検査・所見	<p>各レジメン開始前に以下の事項が評価されている患者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Performance Status(PS)
	<p>分母: 化学療法を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
26'	化学療法中の臨床検査・所見	<p>治療開始後最初の3ヶ月間は、月1回以上、下記の血液検査がなされている患者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白血球数(好中球数を含む) ・血小板数 ・総ビリルビン、AST、ALT ・血清クレアチニン値
	<p>分母: 化学療法を開始された胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
27	化学療法の効果判定	<p>少なくとも4ヵ月ごとの画像診断による治療効果判定が診療録に記載されている患者数</p>
	<p>分母: 初回化学療法を受けた切除不能進行・再発胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
28	化学療法による有害事象の記載	<p>最初の3ヶ月、毎回、医師による診察時、有害事象の有無が診療録に記載されている患者数</p>
	<p>分母: 外来で化学療法を受けた胃癌患者数</p>	<p>分子:</p>
フォローアップ		
29	手術後の定期的検査	<p>術後3年間、最低年1度の腹部画像検査が施行されている患者数</p>
	<p>分母: Stage III胃癌に対する根治手術を受けた患者数</p>	<p>分子:</p>

30 内視鏡切除後の定期的内視鏡検査

分母: 内視鏡切除を受けた胃癌患者数

分子: 切除後3年間、少なくとも1年ごとに上部消化管内視鏡検査で局所再発、多発癌の有無を検査されている患者数

肺癌QI一覧

術前評価	
1	検査・治療前の胸部CT 分母: 肺癌患者数 分子: 診断過程において、侵襲的検査や治療が行われる前に胸部単純CTあるいは胸部造影CT検査が行われた患者数
2	中枢神経症状を伴う患者に対する治療前の画像検査 分母: 診断過程において、中枢神経症状を伴う肺癌患者数 分子: 治療開始前に画像診断(頭部MRI、頭部CT、特別な理由がない限り造影)が行われた患者数
3	骨転移を疑う症状のある患者に対する画像検査 分母: 骨転移を疑う臨床所見(骨の痛み、胸痛、血中カルシウム高値など)がある肺癌患者数 分子: 診断過程において、骨シンチ、MRI、PET、単純写真のいずれかが行われた患者数
4	肝臓・副腎転移に対する画像検査 分母: 肺癌患者数 分子: 診断過程において、画像検査が行われて肝臓と副腎の転移の有無について記載されている患者数
5	治療前の確定診断 分母: 肺癌に対して手術療法以外の治療が行われる患者数 分子: 治療開始前(緩和的放射線療法は除く)に、組織診または細胞診で確定診断が得られた患者数
6	TNM Stage診断の診療録への記載 分母: 肺癌と診断された患者数 分子: TNM Stageが診療録に記載されている患者数
6'	TNM Stage診断の診療録への記載 分母: 肺癌と診断された患者数 分子: 治療前にPSが記載されている患者数
7	術前の呼吸機能検査 分母: 外科切除または根治的放射線治療を受けた肺癌患者数 分子: 術前に呼吸機能検査(スパイロメトリー)が行われた患者数
外科療法・病理	
8	治療内容の診療録への記載 分母: 臨床Stage I ~ IIの非小細胞癌と診断された患者数 分子: 外科治療が行われたか、行われなかった場合にはその根拠が診療録に記載されている患者数
9	組織型の病理所見書への記載 分母: 生検検体が提出された肺癌患者数 分子: 病理診断書にWHO分類に準拠した組織型(判定不能な場合には推定組織型に言及)が記載されている患者数
10	手術所見の記録 分母: 手術を受けた肺癌患者数 分子: 以下の項目が診療録に記載されている患者数 (腫瘍径、腫瘍の発生部位、腫瘍の組織型、胸膜浸潤の程度、リンパ節郭清個数、郭清部位毎の転移の有無、切除断端または剥離面における癌細胞の有無、胸膜播種の有無、悪性胸水の有無)
11	術前療法に対する病理学的効果判定の記載 分母: 術前化学療法あるいは放射線治療が行われ、手術後に病理検体が提出された肺癌患者数 分子: 病理学的効果判定がなされ診療録(病理所見書を含む)に記載されている患者数

12	最終病理診断の時期	分母: 手術検体が病理に提出された肺癌患者数	分子: 特殊染色を追加している場合を除き、3週間以内に最終病理診断がなされた患者数
13	開胸時の胸腔内所見の診療録への記載	分母: 外科切除(胸腔鏡下切除を含む)が行われた肺癌患者数	分子: 開胸時の胸腔内所見(主腫瘍の位置, 胸水貯溜の有無, 胸膜播腫の有無)が診療録に記載されている患者数
14	肺実質切除	分母: 根治手術が行われた肺癌患者数	分子: 肺葉以上の肺実質切除が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
15	肺門・縦隔リンパ節の郭清・サンプリング	分母: 根治手術が行われた肺癌患者数	分子: 原発巣の切除に加えて、肺門・縦隔リンパ節の郭清・サンプリングが行われてその範囲を診療録に記載するか、行われない理由が記載されている患者数
16	胸水の細胞診	分母: 外科切除(胸腔鏡下切除を含む)において胸水がみられた(E0との記載がない)肺癌患者数	分子: 胸水の細胞診が行われた患者数
非小細胞肺癌に対する治療			
17	プラチナ製剤を含む2剤併用療法	分母: 75歳未満、PS0~1でStage III~IVの非小細胞癌と診断され、化学療法を受けた患者数	分子: プラチナ製剤を含む多剤併用療法が行われたか、行われない場合には根拠が診療録に記載されている患者数
18	化学療法の施行コース数	分母: 削除	分子: 削除
19	化学療法後の増悪・再発患者に対する化学療法	分母: 非小細胞癌の患者でプラチナ製剤を含む化学療法施行後に増悪または再発した患者数	分子: 再度化学療法を行う選択肢について、患者に説明がされているか、化学療法施行が不可能な理由の記載がある患者数
20	非手術のStage I 非小細胞癌に対する根治的放射線治療	分母: 臨床Stage I 非小細胞癌と診断され、手術が行われなかった患者数	分子: 根治的放射線単独治療が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
21	切除不能非小細胞癌に対する化学放射線療法	分母: 臨床Stage III 非小細胞癌(悪性胸水例または悪性心嚢水例を除く)と診断され、 ① PS0~1 ② 70歳以下 ③ 手術が行われなかった患者数	分子: 化学放射線療法が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
22	Stage II、III A 非小細胞癌に対する術後化学療法	分母: 術後Stage II、III Aの非小細胞癌で完全切除された患者数	分子: プラチナ製剤を含む術後化学療法が行われたか、行われない理由が診療録に記載されている患者数
23	単発性脳転移に対する手術・放射線治療	分母: 非小細胞癌の単発性脳転移(他臓器にも転移がない)と診断され、神経症状のあるPS0~1の患者数	分子: 放射線治療(または手術)が行われた患者数(神経症状によるPS低下を除く)

小細胞癌に対する治療

24	小細胞癌に対する多剤併用化学療法 分母: 小細胞癌と診断されたPS0~3の患者数	多剤併用化学療法(化学放射線療法の場合も含む)が行われたか、行わない場合はその理由が診療録に記載されている患者数
25	小細胞癌に対する化学療法の施行コース数 分母: 小細胞癌と診断され、シスプラチン/ エトポシド またはシスプラチン/ 塩酸イリノテカンの併用療法を受けた患者数	4コース以上6コース以下であったか、そうでない場合はその理由が診療録に記載されている患者数
26	限局型小細胞癌に対する化学放射線療法 分母: 限局型小細胞癌と診断された患者数	化学療法と胸部放射線治療の同時併用が行われたか、行われなかった理由が診療録に記載されている患者数
27	限局型小細胞癌に対するシスプラチン+エトポシドを用いた化学放射線療法 分母: 限局型小細胞癌と診断され、化学放射線療法が行われた患者数	化学療法のレジメンとしてシスプラチン+エトポシドが使用されたか、それ以外の場合は理由が診療録に記載されている患者数
28	小細胞癌に対する予防的全脳照射 分母: 限局型or進展型肺小細胞癌に対する初回治療でCRが得られた患者数	全脳照射(PCI)が行われたか、行わない理由が診療録に記載されている患者数
29	再発小細胞癌の化学療法 分母: 小細胞癌と診断された患者で、初回治療が奏効し治療完了後90日以上経過後に初めて増悪が確認されたPS0~1の患者数	化学療法が行われたか、行わない理由が診療録に記載されている患者数
放射線治療		
30	放射線治療計画 分母: 肺癌に対し、根治目的で放射線治療計画が立てられた患者数	分子: CTシミュレーションによる治療計画が行われた患者数
31	放射線治療の照射線量 分母: III期非小細胞癌と診断され、根治的胸部放射線療法(化学放射線療法を含む)を行った患者数	通常分割照射の60Gy相当以上の線量で照射が行われたか、行われなかった場合にはその理由が診療録に記載されている患者数
32	化学放射線療法における1日2回照射 分母: 限局型小細胞癌に対して同時化学放射線療法を行った患者数	分子: 1日2回照射が行われた患者数
33	胸部放射線治療の患者説明 分母: 肺癌に対し、胸部放射線治療を受けた患者数	分子: 目的、方法、有害事象(急性障害および慢性障害)について説明がなされ、そのことが診療録に記載されている患者数
有害事象のフォローアップ		
34	胸部放射線治療による放射線障害の記載 分母: 肺癌と診断され、胸部放射線治療(化学放射線療法を含む)を受けた患者数	分子: 照射期間中に急性障害(食道炎または皮膚炎)について、また照射終了後6ヶ月以内に、慢性障害(肺臓炎または脊髄症)の有無について診療録に記載されている患者数
35	静注化学療法施行中の定期検査 分母: 肺癌と診断され、静注化学療法(化学放射線療法を含む)を受けた患者数	分子: 初回化学療法の各クール開始前または1ヶ月に1回以上、以下の検査がなされている患者数 ・血液検査 ・胸部X線